



『己に克つ』



愛知県
愛知県武徳館剣道教室
小学6年 竹内 伶

去年の僕。かかり稽古の時、先生が怖くて、優しい先輩の元立ちの列に並んでいつも逃げてばかりいました。また稽古前になると、なぜか頭が痛くなって、見取り稽古の回数が多くなっていました。本当は仮病の時もありました。しかも試合の日は家を出る時から勝てる気が全くなくて、結果は負けてばかりでした。負けても全然くやしくありませんでした。それどころか個人戦の時は、強い子は六年生にたくさんいるから五年生の僕が負けても仕方がないと思っていました。本当に逃げてばかりいました。

だから六年生になった時、やっぱりAチームに入る事ができませんでした。僕は今までのだめな自分を変えたいと強く思いました。そのために「Bチームのキャプテンになろう」と決めました。だけど僕は大将でもないし、なかなか試合に勝てないのでキャプテンになれるはずがありません。だけどチームの皆は快く僕をキャプテンにしてくれました。

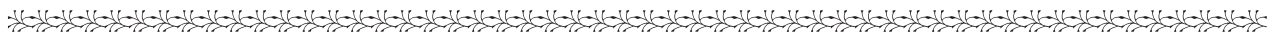
キャプテンとしてやらなければならない事。それはチームをまとめる事です。チームで目標を一つ決めて皆で取り組めばチームの団結力が高まると考えました。僕は夏の武道館の大会までに一人一人が素振りを四万本する事を提案しました。少し不安な提案でしたが皆は、「よっし！やる～！」と言ってくれました。それから二週間に一回ちゃんとできているか報告会をしました。できていない子にはどうしてできないのかいっしょに考えたり、はげましたり、チームでどうしたらいいかを考えるようにしました。僕が始めた四万本素振りだから僕がなまけていたらいけない。だんだん皆で達成したいという強い気持ちが出てきました。夏の武道館の全国大会は、予選を勝ち抜いて出場することができたので、チームの団結力が今までで一番高まりました。

また、皆で大きな声を出して試合を応援すればチームの団結力がさらに高まると思い、まず僕が一番大きな声を出しました。そうするとチームの他の皆も大きな声で応援するようになりました。大きな声を出すと、自分の気持ちも盛り上がって負ける事がだんだん少なくなっていきました。

以前は逃げてばかりの僕がどうして変わる事ができたのかと言うと、チームをまとめたという気持ちが強くなって、僕に責任感が出てきたからだと思います。試合で負ける事が少なくなったり、チームの皆が僕についてきてくれるので自分に自信がついてきました。

いつも僕は先生から「怖がっている」と言われます。剣道ノートに「だれだっていきなり自分に自信なんてありませんよ。自分で自信ある自分を作るんですよ。だから己に克つ。」と先生が書いてくださいました。

夏の大会を終えて今の僕は、去年の僕と比べて稽古に積極的に臨むようになりました。かかり稽古ではきびしい先生にも立ち向かうように心がけています。稽古前に頭が痛くなる事は今はもうありません。自分に自信がついてきて去年の僕に打ち克っているんだと思います。



先日のリオオリンピックでは日本代表で主将の吉田沙保里選手は責任感を持って試合に出ただと思います。吉田沙保里選手は銀メダルだったけれども自分自身に打ち克ったのです。これは、僕が沙保里選手を見習うべき点です。

これからは過去の自分に打ち克ち続けていきたいと思います。「克己心」この言葉を心にひめて。